

成田の舞台裏

普段何げなく利用している施設やサービス。その裏側では、どのようなことが行われているのでしょうか。ここでは、普段は見るできない成田のさまざまな舞台裏を紹介します。

第19回 成田伝統芸能まつり秋の陣 ～19万人の盛り上がりを作り出す～

9月16日・17日に開催された「成田伝統芸能まつり秋の陣」。全国の伝統芸能団体が成田に集まるこの祭りは平成26年から開催され、今年で10回目を迎えました。今回は、開催前に行われてきた会場の準備の様子などを紹介します。

会場となるのは、成田山表参道やなごみの米屋 スカイトウンホールなど。表参道沿いの会場は、普段は広場や駐車場として利用されているため、前日と当日の限られた時間で準備を行います。一番大きいステージが設けられた総門前広場では、前日の日中から舞台の設営が行われました。専門業者によって資材が組み上げられ、本格的な舞台が出来上がったのは日が暮れた頃。客席からの見た目はもちろんのこと、出演者が舞台上に立った時に傾きが気にならないか、つまずくような場所がないかといったポイントに注意を払っていました。

舞台の設営が終わった後に行われるのが音源を流すPA機器のセッティング。出演団体によって演出はさまざまです。そのため、どのような演出にも対応できるように、ステージ上はもちろん、客席の近くでマイクが使われた時の音の響き方で入念に確認していました。

そして迎えた初日の朝。市の職員が中心となり、客席用の椅子を並べ、各ステージの受付や舞台袖のテント内部の設営などを行いました。それらの準備と並行して司会者や音響業者を含めた細かい調整をこなして、いよいよ開演。

2日間で延べ19万人が訪れたこの祭り。この盛り上がりの舞台裏には、市の職員はもちろん、舞台の設営業者や音響業者、司会者など、多方面から集まった大勢の人の関わりがありました。



①



②



③

- ①舞台の脚をしっかりと固定
- ②PA機器の準備にプロの目が光る
- ③全力のパフォーマンスが披露される

コロナ禍前のにぎわいを目指して

観光プロモーション課 岩本 瑞歩さん

出演団体の数などをコロナ禍前の規模に戻して開催したため、その分、多くのお客さんに来てもらいたいという思いが強くありました。両日ともに天候にも恵まれて、表参道のお店の人やお客さんから「コロナ禍前よりもにぎわっているんじゃないか」と言われた時はうれしかったです。出演団体の皆さんに最高の演技をしてもらうために、舞台袖に氷を入れた飲料を用意しておくなど、細かい部分にも気を配りました。



舞台裏の様子をYouTubeでも

右のQRコードから成田市公式YouTubeチャンネルにアクセスして、スマートフォンやタブレットなどから、取材の際に撮影した動画やスライドショーを見ることができます。



成田市公式
YouTubeチャンネル

編集後記

10月27日～11月9日は読書週間。本を読むといろいろな言葉に出会います。最近面白いと思ったのは「膝を打つ」という言葉。調べてみると「思いついたこと」のほか「同感したこと」などを表すそうです。2ページでは、子どもが本に親しむための市立図書館の取り組みを紹介しています。子どもの頃から見てきた両親が読書をする姿。その影響を受けて本を読むようになったと思うので、同ページの「周りの大人の働きかけが必要」という部分には思わず膝を打ちました。

令和5年10月15日号 No.1493

成田市のホームページ

<https://www.city.narita.chiba.jp>

*QRコードは隣デンソーウェブの登録商標です



*本紙は10月5日時点の情報を掲載しています。最新情報は各ページの問い合わせ先や市ホームページで確認してください。

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。